

## 産学官協力への高専間連携

全国高専テクノフォーラム

運営委員会委員長

久留米工業高等専門学校校長 柳 謙 一

平成14年7月に鈴鹿高専で開催された「全国高専テクノサミット」で、産学官連携のための高専間交流活性化の必要性が議論されました。平成14年11月の第3回国専協第3常置委員会において、この「全国高専テクノサミット」を平成15年度以降は「全国高専テクノフォーラム」として国専協と開催担当校が主催して開催すること、ブロック単位で北から順に開催すること、第1回は釧路高専で開催することが決定されました。

平成15年度のテクノフォーラム運営委員会メンバーとして全国8地区から釧路、宮城、長岡、豊田、奈良、宇部、阿南、久留米高専の各テクノセンター長等に委員として参加していただきました。

さて、独立行政法人化の流れの中で、自立・個性の発揮・地域への貢献などを求められている高専が産学官連携の一層の推進を図ることは当然のことです。高専の共同研究の件数・金額はともに毎年着実に増加していますが、全国の高専間ではその取り組みにはバラツキがあります。産学官連携は共同研究、インターンシップ(学外長期研修)、公開講座、講演会、ボランティアなどいろいろ方法があります。各高専で産学官連携に中心的に取り組んでおられる教官が情報交換と議論を通じて高専間連携の方策を立てることを目的として、第1回の全国高専テクノフォーラムのサブタイトルは「産学官協力に向け全国高専はいかに連携するか」と致しました。

産学官連携の強化に必要なものは、教官の意識改革、地元企業とのパイプづくり、シーズとニーズのマッチング、産学連携の実績の教官評価への結びつけ、など様々な項目が挙げられていますが、パネルディスカッションのテーマ 地域協力、共同研究推進、産学連携の仕組みづくり、のどれにも共通するものです。

地域で高専が生きるには地域社会への貢献は不可欠であり、また技術者として社会に貢献する目的を持った学生の参加する共同研究・インターンシップの教育効果は絶大です。このテクノフォーラムが産学官連携の推進に役立つことを願っております。

最後に、本テクノフォーラムの実行委員会委員長木谷釧路高専校長、北海道内各高専(釧路、函館、苫小牧、旭川)、鈴鹿高専、久留米高専の各テクノセンター長等をはじめ、第1回全国高専テクノフォーラムの開催に御尽力いただきました関係各位に、心よりお礼申し上げます。